

# 令和 7 年度 第 1 回学校運営協議会記録

## 1. 日時・場所

令和 7 年 5 月 19 日（月）13：20 ～ 15：10

大阪府立八尾高等学校 校長室

## 2. 出席者

大阪教育大学教授 廣木 義久

八尾市内学習塾代表 児玉 隆

八尾市立成法中学校校長 小山 健治

八尾市立八尾小学校校長 浅野 貴至

本校 P T A 会長 吉本 桃

本校同窓会副会長 松村 康隆

本校

中島彩子(校長) 中村泰造(教頭) 百軒由香子(事務長) 水野道尚(首席) 久世逸平(首席)

庄司佳保里(教務主任) 久米祥子(進路指導主事) 田名瀬洋平(1 学年主任) 藤本一典(2 学年主任)

長田貴史(3 学年主任) 板倉大和(新規採用教員) 久保美雅(新規採用教員)

## 3. 議題 ※委員会に先立って授業観察を実施

### ① 校長あいさつ

学校運営協議会委員の紹介

学校運営協議会委員長の決定

学校運営協議会委員長のあいさつ

### ② 学校運営協議会について

### ③ 学校経営方針について

### ④ 令和 6 年度入試結果について

### ⑤ 入学時アンケートについて

### ⑥ 令和 7 年度学校行事予定について

## 4. 協議内容

### ③ 学校経営方針について

- 私立高校の授業料無償化により、私立高校を選択する傾向が強まっていること、また、八尾高校の入試難易度が「C」であることが、生徒にとって心理的なハードルとなっている可能性があること、さらに、昨年度は部活動体験が実施できなかったことが、志願者減少の要因と考えられる。
- 私立高校授業料無償化によって表面上の費用負担は軽減されたが、実際には授業料以外での出費が存在する。無償化制度の導入から 2 年めを迎え、その実際の費用感がどのように認識されるか注視する必要がある。公立と私立の費用面の違いについても、学校説明会などで丁寧に説明していく必要がある。

- 公式 Instagram を導入する場合は、「何のために運用するのか」という明確な目的を設定することが重要。目標設定がなければ、運用後の振り返りや効果検証が難しくなる。教員が分担して投稿する体制にするのか、投稿頻度はどの程度にするのかといった運用ルールの整備も求められる。教員の負担軽減を考慮して、外部委託を検討してみてもどうか。
- 八尾高校は学習面だけでなく、部活動や学校行事にも積極的に取り組める環境が整っている。また、校則や服装の自由度も高い。私立高校に比べて「自由で楽しそう」と感じてもらえるよう、こうした特徴を広報活動でより積極的に発信していく必要がある。

#### ④ 令和 6 年度入試結果について

- データ上では大阪公立大学の合格者数が前年より 10 名減少しており、表面的には実績が落ちたように見える。しかし、全体の進学実績としては昨年度と大きな差はなく、着実な成果を挙げている。中学生や保護者に対しては、短期的な数字だけで判断されないよう、「進学実績は長期的には確実に向上している」点を丁寧に説明していくことが重要。
- 地方の国公立大学への合格者数が 10 名を超え、昨年度と比較して増加傾向にある。関西圏にとどまらず、全国に目を向けて「自分のやりたいこと」に真剣に向き合う生徒が増えており、進路選択の幅が広がっていることは大きな成果。

#### ⑤ 入学時アンケートについて

- 併願先として選ばれることの多い私立高校の特色と本校との違いを把握することも大切だが、それ以上に注目すべきは、併願するということ自体が、生徒や保護者が八尾高校に対して強い関心を持っている可能性が高いという点。そのため、あえて併願数が少ない、つまり本校よりも魅力を感じて選ばれている可能性のある私立高校との違いを明確にし、それを意識した広報を展開するほうがより効果的ではないか。
- 保護者は「みんなの学校情報」などの口コミサイトを参考に学校を選んでいる傾向がある。また、生徒以上に保護者は学校ホームページをよく閲覧している傾向もある。こうした傾向を踏まえると、保護者と生徒、それぞれのニーズに特化した広報ツールを用意することができれば、より効果的ではないか。
- 私立高校は塾へのアプローチが積極的で、進学実績を前面に出す傾向がある。ただし、それらの実績は上位コースの生徒に限定されたものである場合があり、他のコースについては不透明な部分もある。それに対し、公立高校は学科やコースに関係なく、すべての生徒を対象にしており、その点に信頼感や安心感を持つ保護者も多いのではないか。
- 志願者倍率が 1.4 倍を超えた年度も過去には存在するが、その際に学校として特別な広報や取り組みを行ったわけではない。この事実から、志願者倍率は本校の取り組みのみによって決まるものではなく、他校の動向、特に「グローバルリーダーズハイスクール」など特定校の倍率や募集状況が大きく影響する可能性があることに留意する必要がある。